

大阪城公園における生物多様性保全 の取組について

大阪城パークマネジメント共同事業体 大和リース株式会社



菅野浩一



大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト



垣井清澄



令和5年3月5日(日)

大阪市

生物多様性の主流化推進に向けた シンポジウム

大阪のシンボル天守閣を中心とした国内最大級の都市公園

- ・ 大阪の中央に位置する、総面積105.6haの広大な公園
- ・ 都会のオアシス。渡り鳥がはねを休める重要な中継地点
- ・ 約300本の桜を楽しめる西の丸庭園。約100種、1270本の梅の花が咲き誇る梅林
- ・ 大阪城音楽堂や大阪城ホールなどの文化施設、修道館や弓道場などのスポーツ施設
- ・ 櫓など重要文化財、石垣・濠を含む特別史跡



指定管理者

大阪城パークマネジメント共同事業体

代表者

大阪城パークマネジメント株式会社

構成員

出資

大和ハウス工業株式会社

公園全体の運営管理、共同事業体のマネジメント、駐車場運営

讀賣テレビ放送株式会社

天守閣をはじめとする各施設の集客事業、イベント企画運営

株式会社電通 関西支社

国内外観光客の集客戦略の策定と営業活動、各種イベントの企画

株式会社NTTファシリティーズ

公園施設の維持管理全般（施設管理、電気設備、清掃、警備）

大和リース株式会社

公園内の緑地管理全般（石垣・濠含む）、リース事業

大阪城公園生きものいっぱいプロジェクトとは

経緯

2021.8.26 「生物多様性保全NW会議～生きものにふれあえる大阪城公園をめざして～」



< 提案 >

大阪城公園で、「生物多様性に配慮した公園管理と活用を考え、活用の実践と、公園管理に係る組織（指定管理者や大阪市の関係部署）とのコミュニケーションの場を作っていく動き」を始めたい。

2021.10.11 「大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト」の発足



「大阪自然環境保全協会」「日本野鳥の会大阪支部」「NACS-J自然観察指導員大阪連絡会」の3団体によって活動開始。

活動

2021.10～2023.1 「大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト」の活動



- ・ 大阪市、公園管理者とのコミュニケーション
- ・ その他のコミュニケーション

- ・ 大阪城公園自然観察会
- ・ その他のイベント

大阪城公園自然観察会

2021年12月から、毎月の第3日曜日を基本として、開催。（生きもの情報の収集、他。）



これまでのイベント

- 2022.1.29
「自然案内人と親子で遊ぶ～大阪城公園の冬の生きもの～」
- 2022.7.30
「大阪城公園生きものすごいぜ！
君はいくつの生きものと出会えるか？」

大阪城公園生きものすごいぜ！～キミはいくつの生きものと出会えるか？～
観察コース、見つけた生きもの



公園管理者とのコミュニケーション

大阪城公園事務所

・2021年度

転落防止柵の更新に伴う低木や高木の伐採があったが、コミュニケーションを通じて、伐採の範囲を縮小して頂いた。

・2022年度

樹木伐採計画について情報提供を受け、これら樹木の現地確認を行った。公園事務所に現地の案内も頂いた。

公園事務所の配慮事項について説明を受け、意見も述べ、一部について追加の配慮を頂いた。



残された生垣



残された切り株

大阪城パークセンター

・2021年度

大阪城公園自然観察会等の生きもの情報と提供と意見交換を行った。

・2022年度

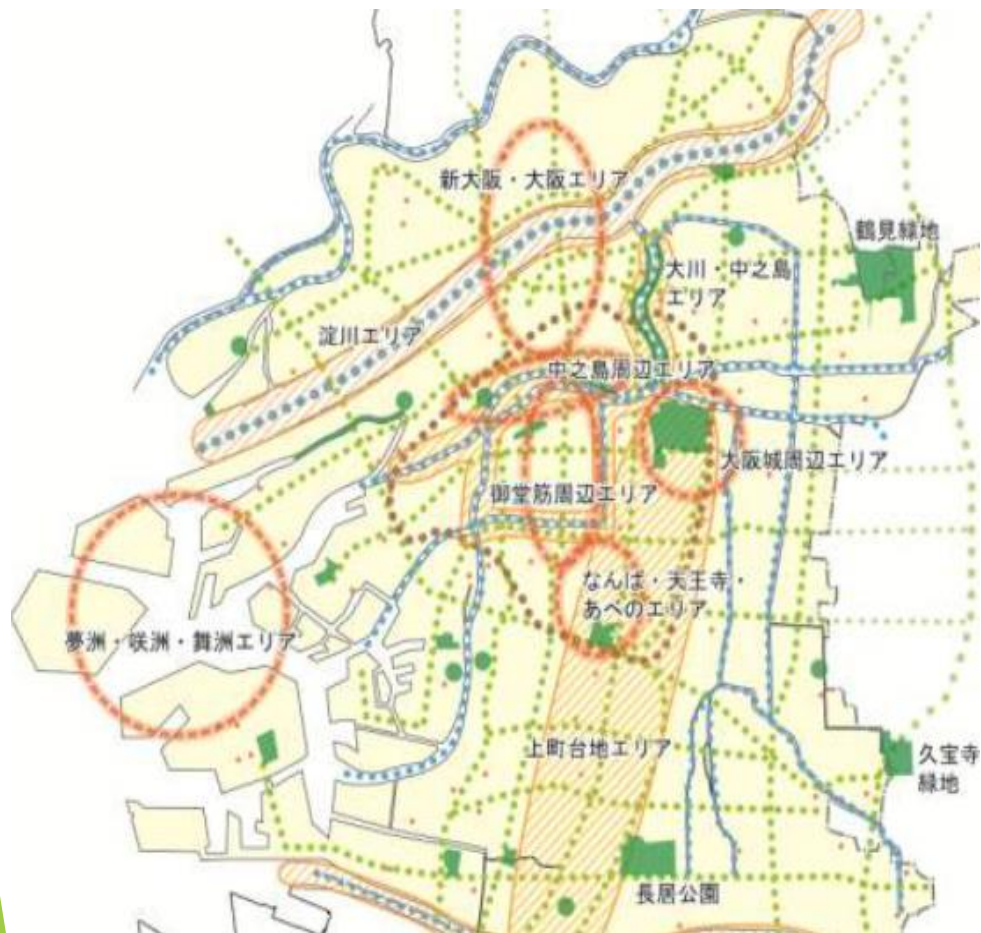
「大阪城公園・生物多様性保全エリア草刈り見学」と意見交換を行っている。

生物多様性保全エリア



都市のエコロジカルネットワーク

新・緑の基本計画において、
「大阪城公園」は、みどりのネットワークと骨格を
形成する上で、とても重要な緑地です



■みどりの基盤づくりと都市魅力の発信
大阪城公園の

生物多様性価値創造ストーリー
「都心の公園でも豊かな自然とのふれあい、
多様な主体のパートナーシップ
による協働の場」



①生物多様性に配慮した緑地
の創出・管理



②自然体験プログラム



③パートナーシップ

基盤づくりと体験をパートナーシップで
進めることで、自然・歴史・文化を感じる
みどりを育てていきましょう！

大阪城公園での活動

・生態系に配慮した緑地管理



生物多様性保全エリア

・サクラを守れ！（クビアカツヤカミキリ）



外来種対策



・自然体験プログラム「わかりやすいかくれんぼ」



・大阪レンジャーズ



etc

生物多様性を意識した これからの大阪城公園

今まで

- ・草刈り時は残らずきれいに刈り取る
- ・枯れた樹木、
幹に穴の開いた樹木は切除、撤去
- ・落ち葉、落下枝は清掃撤去

これから

- ・草丈を膝ほどに残して刈るエリアを作る
(昆虫、クモ類等のエサと住処)
- ・外来種を刈り取り、
在来種を残す刈り方を採用
- ・残せる樹木は残し野鳥に巣を提供
- ・植栽帯の落ち葉は出来る限り残し、
土壌をフカフカに(良いミミズ)
- ・クスの剪定枝を有効利用(植物生体水)

これからの活動の方向性

広がり求めて、進めて行きたい内容は次の通り。

- ・大阪城公園をフィールドとした
生きもの情報の共有化を図って行きたい。
- ・大阪城公園をフィールドとして
自然系の活動をされている**団体や個人とのネット
ワーク**を作って行けないか。
- ・パークセンターが進めておられる
「生物多様性保全エリア」での活動との協働を
行って行きたい。
- ・大阪城公園で**継続的に活動するボランティア
(大阪城公園生きもの案内人)**を養成して行く様
な動きが出来ないか。

生物多様性の主流化に対して何ができるか

- ・大阪城公園の管理において、**生物多様性配慮を
市民参加**で進めたい。(「渡り鳥がお濠で休息する
事への配慮」、「小鳥が営巣する木々に配慮した伐採
や剪定」、「公園内イベントにおける生き物への配慮」
等々。)
- ・緑の質について配慮。(野鳥や昆虫との関係性、
地域の在来種の有効性など。)
- ・生態系発想、美観の受けとめ方、管理容易性につ
いて検討。(生態系を踏まえたゾーニングと管理。美意
識は意味が分かれば変わる。そこで発生した自然
素材を活用、宿根草を活用、等。)
- ・**大阪城公園の生物多様性を提案できる組織**の構築。

ご清聴ありがとうございました。



大阪城パークマネジメント共同事業体 大和リース株式会社

大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト